

## 第2A分科会 研究課題「子供の発達に関する課題」

地域や子供の実態を踏まえた、より効果的な子供の資質・能力の向上を目指して  
～小学校と中学校の、より充実した連携への手立て～

### 1 主題設定の理由

浜松市では、キャリア教育を核とした人づくりを推進しており、目指す子供の姿の一つに「これからの社会を生き抜くための資質・能力の向上」を掲げている。より効果的に子供の資質・能力を向上させるために、各中学校区で地域の実態に合わせて研究方法を考えて小中連携を柱とした研究を進めた。今回は地域の実態から「カリキュラム・マネジメント」「子供の実態把握」「地域との連携」をテーマに、その効果と教頭の役割について実践を行った。

### 2 研究の方法（研修組織と内容）

より効果的に子供の資質・能力を向上させるために、中学校区ごとに地域の実情等に合わせて、「カリキュラム・マネジメント」「子供の実態把握」「地域との連携」の実践し、その効果と教頭の役割について検証する。

### 3 研究の内容

#### (1) 「カリキュラム・マネジメント」の実践

A 中学校区では、小中合同研修において子供の特徴を話し合い、9年間で付けたい基礎的・汎用的能力を見通すワークショップ型研修を行った。また1年間のPDCAサイクルを共有化して持続的なキャリア教育の実践を行った。

C 中学校区は、毎年小中の校長・教頭が一堂に会して教育課程の確認を行っている。これにより互いに校長の教育方針を確認できた。教頭からキャリア教育の目標を踏まえた方向性や目的を説明することにより、同一步調で指導ができるため、より効果的に能力の向上を図ることができた。

#### (2) 「子供の実態把握」の実践

E 中学校区では、外国人児童・生徒が27%を超え、日本語の習得や進路など、課題が多い。その背景には、認知力の低さがあると考え、校

区全体で「コグトレ」を取り入れた実践を行い、自己肯定感の改善を図った。H 中学校区では、中学校で取り組んでいるピア・サポートを中学生が小学生に伝える実践を行い、人間関係形成能力や自己理解能力の向上を図った。

#### (3) 「地域と連携」の実践

K 中学校区では、3世代家族が多く、素直で優しい子供が多い反面、主体性に欠ける面がある。地域団体と小中学校が連携し、天竜川クリーン作戦を行い、地域への愛着を深め、積極的に人と人とのつながりを大切にしながら社会形成能力の育成を図る実践を行った。

### 4 教頭としての働きかけ

地域や学校の実態を把握し、中学校区内の小中学校で教頭が育成すべき力を共通理解し、地域や職員への働きかけを行った。

- (1) 校長の意向を確認し、全職員が活動の方向性や目的を共通理解するための指導や助言した。
- (2) 地域とのつなぎ役として、地域と学校のお互いの思いや願いを交換する中で、教育的価値のある活動が計画できるように地域へ発信した。

### 5 今後の課題

地域や子供の実態の変容を確実に捉え、柔軟に対応して子供の資質・能力を育てていくための手立てについて、今後研究していきたい。

### 6 話し合いの視点

子供の資質・能力の向上に向けて、各学校で実践している小中連携や地域との連携の具体的な方法について。